

2023 大阪ブロック訓練競技会

■公開訓練試験併催（BHを含む） ■理事長賞付与

開催日：2023年3月11日(土) [雨天決行]

大阪府

会場：泉大津フェニックス多目的緑地

開門時間：午前6時00分 [予定]

受付時間：午前7時00分～8時00分 [予定]

競技開始：午前8時00分 [予定]

※開門・受付・競技開始時間に変更する事がありますので、ご了承ください。
※審査、出場順は、出陳目録掲載番号順を原則とします。また、発情犬は、各クラスの最後に競技していただきますので、受付時に申告して下さい。
※出陳目録には、当該犬のデータの他に所有者名並びに所在地（都道府県・市区）が掲載されます。

申込開始日：2023年2月6日(月)

郵便必着
振込必着

申込締切日：2023年2月20日(月)

【申込方法】

①WEB申込・銀行振込による送金

詳しくは大阪ブロック特設ホームページをご覧ください。

②郵送による申込

出陳料は必ず現金書留で郵送してください。

その他の方法で送付された場合、万が一事故等が発生しても一切の責任を負いかねます。

※当日申込及びFAXによる受付はできません。

審査員長兼公開訓練試験委員

杉浦基之

参加上の注意事項

- ①開門時間前に門の前に並ぶ行為はおやめ下さい。
- ②車輛は指定された駐車位置に駐車して下さい。
- ③駐車スペースの場所取りは禁止とします。
- ④会場内でのテント・タープ等の設営は禁止です。
- ⑤駐車スペースを含む会場内は火気厳禁・完全禁煙です。
- ⑥リンク以外では必ず犬に紐を付けて通行して下さい。
- ⑦水道設備がございません。各自でご用意をお願いします。
- ⑧お弁当の配布はございません。
- ⑨ゴミ、糞便は各自お持ち帰り下さい。
- ⑩会場では必ず各係員の指示に従って下さい。
- ⑪悪天候や感染症の流行などのやむを得ない理由により競技会を中止する場合及び、締切前に申込みをキャンセルする場合は、事務手数料として出陳料より1頭につき1,000円を申し受け、残金を返金いたしますのでご了承ください。

競技会事務所

〒563-0043 大阪府池田市神田3-3-4
よしもとドッグトレーニングスクール内
吉本英知 方 TEL 090-2061-4849



大阪ブロック特設ホームページ

<https://ydogts.com/jkc-osaka202303/>



WEB申込み・銀行振込による送金ができるようになりました。ぜひ、ご利用ください。

本競技会に関する各種最新情報は、よしもとドッグトレーニングスクールのFacebookページに掲載いたします。

■感染予防対策にご協力ください■

- ・駐車場入場時に体温測定を行います。37.5度以上の発熱がある場合は入場いただくことができません。
- ・マスクの着用・咳エチケットの励行をお願いします。ただしご自身の競技中はマスクを外していただいて構いません。
- ・その他、各自基本的な感染予防対策を実施してください。

主催 大阪ブロック訓練士協議会

後援 一般社団法人 ジャパンケネルクラブ (JKC) / 西日本ブロック訓練士協議会

実施要領

1 出陳規定

- 1) 本会会員が所有する、生後満9カ月1日以上（2022年6月10日及びそれ以前の生まれ）の本会登録犬（アペンディクス登録犬を含む）に限ります。
- 2) 本会会員所有の非公認犬種・非公認団体登録犬・交雑犬は、生後満9カ月1日以上であれば家庭犬準初等科・特別犬の部・オビディエンスビギナーⅠ～Ⅱに限り出陳することができます。ただし、訓練チャンピオン資格犬にはなりませんので、トレーニングチャンピオン（T. C.H.）ポイントカードは付与されません。
- 3) 同一犬の重複出陳については、以下の通りとなります。
 - ① 家庭犬準初等科・初等科・中等科・準高等科・高等科は、連続する2つのクラスまで出陳できます。※例えば、家庭犬中等科と家庭犬準高等科では同時出陳できますが、家庭犬中等科と家庭犬高等科では同時出陳することはできません。
 - ② 家庭犬準初等科・初等科・中等科・準高等科・高等科のうち1つのクラスと、臭気選別の部のうち1つのクラスに出陳できます。
 - ③ 臭気選別の部と、服従スペシャルのうち1つのクラスまで出陳できません。
 - ④ 家庭犬中等科・準高等科・高等科・臭気選別の部のうち1つのクラスと、オビディエンスⅠ～Ⅲのうち1つのクラスに出陳できます。
 - ⑤ オビディエンスビギナーⅠ～Ⅱのうち1つのクラスと、服従スペシャル・オビディエンスⅠ～Ⅲを除く全てのクラスのうち1つのクラスに出陳できます。
 - ⑥ 服従スペシャルと中等科・準高等科・高等科・オビディエンスⅠ～Ⅲ・臭気選別の部のうち1つのクラスに出陳できます。
 - ⑦ 同一犬が、複数のトレーニングチャンピオン（T. C.H.）ポイントカード及びメジャー・トレーニングチャンピオン（M. T. C.H.）ポイントカードを取得した場合、1クラスのみ有効とします。家庭犬とオビディエンスで重複した場合も同様に1クラスのみ有効とします。有効とするポイントは出陳の方が選択してください。
- 4) 伝染病・皮膚病など健康上の危惧のある犬、並びに咬癖犬・妊娠犬の出場はご遠慮下さい。また、発情犬は、各クラスの最後に審査を行います。
- 5) 会場内における事故の責任は、一切所有者といたします。本競技会規定並びに実施要領は別記の通りですが、都合で一部変更する場合があります。

2 申込方法

- 1) 競技会出陳申込
所定の出陳申込書に必要事項を記入し、出陳料1頭1クラスにつき8,000円を添え締切日までに競技会事務所必着となるように申込下さい。
- 2) 公開訓練試験受験申込（BHを含む）
各「訓練試験受験登録申請書」に必要事項を記入し、受験料1科目につき5,400円を添え締切日までに大会事務所必着となるよう申込下さい。なお、BH（同伴犬訓練試験）については2023年2月6日を受付開始日とし、申込頭数が10頭になり次第締め切らせていただきます。10頭を超えた受付分については、抽選とさせていただきますので予めご了承下さい。
※両申込とも競技会当日、会場での申込は受付いたしません。また、FAXでの申込も、受付いたしません。

3 審査規定

- 1) 審査は、JKC公認審査員により厳正公平に採点いたします。
- 2) 競技課目は「訓練試験課目・訓練競技課目に関する規程」により行います。
- 3) 競技はアマチュア指導手の部6種目と一般の部14種目に分けて行います。
- 4) 総合得点が同点の場合は、規定課目の得点の高いものを上位とします。規定課目の得点も同点の場合は、担当審査員が判定します。
- 5) 審査の結果に対しては異議の申し立ては許されません。
- 6) 各部共、全ての課目は脚側停座に始まり、脚側停座で終わります。これが守られない場合は、減点の対象となります。

4 指導手規定

本競技会出場犬の指導手の参加資格は、本会のクラブ会員並びにその家族とし、次の通りとします。

A. アマチュア指導手の部について

- ① 出陳犬所有者本人、またはその家族（同居の血縁者）の方に限ります。※本会の公認訓練士並びにその助手、及びこれに準じる者（訓練を業とした経歴を持つ者）は、アマチュア指導手の部には出場できません。その認定は中央訓練委員会で行います。

B. 一般指導手の部について

- ① 出陳犬所有者本人、またはその家族（同居の血縁者）の方。
- ② 本会の公認訓練士並びにその助手、及びこれに準じる者（訓練を業とした経歴を持つ者）。
- ③ 自己所有犬以外の犬を指導する方。

5 競技課目

■アマチュア指導手の部

第1部 家庭犬準初等科（CDIS）

50点 5課目中規定2課目（下記）

- ① 紐付脚側行進（往復常歩）② 紐付立止

次の13課目のうちから3課目選択

ア、紐付伏臥、イ、紐付行進並びに伏臥、ウ、紐付行進並びに停座、エ、紐付行進並びに立止、オ、紐付障害飛越（片道）、カ、紐付据座、キ、紐付休止、ク、紐付お手・おかわり、ケ、紐付チンチン、コ、紐付くわえて歩く、サ、紐付寝ろ、シ、紐付吠えろ、ス、紐付だっこ

第2部 家庭犬初等科（CDI）

50点 規定5課目（下記）

- ① 紐付脚側行進（往復常歩）② 紐無し脚側行進（往復常歩）③ 停座及び招呼④ 伏臥⑤ 立止（紐無し）

第3部 家庭犬中等科（CDII）

100点 10課目中規定7課目（下記）

- ① 紐付脚側行進（往路は常歩・復路は速歩）② 紐無し脚側行進（往路は常歩・復路は速歩）③ 停座及び招呼④ 伏臥⑤ 立止（紐無し）⑥ 常歩行進中の伏臥⑦ 常歩行進中の停座 他3課目

第4部 家庭犬準高等科（CDIIS）

150点 15課目中規定10課目（下記）

- ①～⑦までは家庭犬中等科と同じ⑧ 常歩行進中の立止⑨ 障害飛越（片道）⑩ 休止 他5課目

第5部 家庭犬高等科（CDIII）

200点 20課目中規定14課目（下記）

- ①～⑦までは家庭犬中等科と同じ⑧ 常歩行進中の立止⑨ 物品持来⑩ 遠隔・停座から伏臥⑪ 障害飛越（片道）⑫ 障害飛越（往復）⑬ 据座⑭ 休止 他6課目

第6部 服従スペシャル

100点 10課目

- ① 紐無し脚側行進（往路常歩、復路速歩）② 立止（紐無し）③ 停座及び招呼④ 常歩行進中の伏臥及び招呼⑤ 常歩行進中の立止及び招呼⑥ 物品持来⑦ 遠隔・伏臥から停座⑧ 遠隔・立止から伏臥⑨ 速歩行進中の伏臥⑩ 速歩行進中の停座

実施要領

■一般の部

第7部 家庭犬準中等科 (CD I S)

50点 5課目中規定2課目(下記)

①紐付脚側行進(往復常歩)②紐付立止

次の13課目のうちから3課目選択

ア. 紐付伏臥、イ. 紐付行進並びに伏臥、ウ. 紐付行進並びに停座、エ. 紐付行進並びに立止、オ. 紐付障害飛越(片道)、カ. 紐付据座、キ. 紐付休止、ク. 紐付お手・おかわり、ケ. 紐付チンチン、コ. 紐付くわえて歩く、サ. 紐付寝ろ、シ. 紐付吠えろ、ス. 紐付だっこ

第8部 家庭犬初等科 (CD I)

50点 規定5課目(下記)

①紐付脚側行進(往復常歩)②紐無し脚側行進(往復常歩)③停座及び招呼④伏臥⑤立止(紐無し)

第9部 家庭犬中等科 (CD II)

100点 10課目中規定7課目(下記)

①紐付脚側行進(往路は常歩・復路は速歩)②紐無し脚側行進(往路は常歩・復路は速歩)③停座及び招呼④伏臥⑤立止(紐無し)⑥常歩行進中の伏臥⑦常歩行進中の停座 他3課目

第10部 家庭犬準高等科 (CD III S)

150点 15課目中規定10課目(下記)

①～⑦までは家庭犬中等科と同じ⑧常歩行進中の立止⑨障害飛越(片道)⑩休止 他5課目

第11部 家庭犬高等科 (CD III)

200点 20課目中規定14課目(下記)

①～⑦までは家庭犬中等科と同じ⑧常歩行進中の立止⑨物品持来⑩遠隔・停座から伏臥⑪障害飛越(片道)⑫障害飛越(往復)⑬据座⑭休止 他6課目

第12部 服従スペシャル

100点 10課目

①紐無し脚側行進(往路常歩、復路速歩)②立止(紐無し)③停座及び招呼④常歩行進中の伏臥及び招呼⑤常歩行進中の立止及び招呼⑥物品持来⑦遠隔・伏臥から停座⑧遠隔・立止から伏臥⑨速歩行進中の伏臥⑩速歩行進中の停座

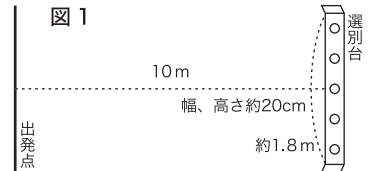
第13部 特別犬の部(非公認犬種・非公認団体登録犬・交雑犬)

家庭犬中等科の課目内容とする。

第14部 臭気選別自臭の部(図1参照)

第15部 臭気選別他臭の部(図1参照)

- 10m前方の選別台にある5個の布片の中から、1個の本臭物品を持来する。
- 1頭の犬が連続4回実施する、4回成功した犬をCHグループとし2次作業を行う。
- 物品を台上に配置するときは、人犬共に後ろ向きになる。
- 作業時間は、本臭を嗅がせ始めてから1分以内とする。
- 決勝のための2次作業以降は、ビニール、箸、紙等を異物品として使用することがあり、犬の前後動作も採点する。



第16部 オビディエンスビギナー I (別紙参照)

第17部 オビディエンスビギナー II (別紙参照)

第18部 オビディエンス I (別紙参照)

第19部 オビディエンス II (別紙参照)

第20部 オビディエンス III (別紙参照)

※オビディエンスに於いて行われる、ダンベルを使用する課目では各個人にてダンベルをご用意ください。

実施要領

6 注意事項

(1) 審査に関するご注意

- ①作業中とは入場から退場までをいいます。作業中としての審査は、課目と課目の間も対象になります。
- ②犬の首輪は、バンドナ、チェーン、カラーなどを含めて、一つだけの装着とします。
- ③指導手はポシエツ類の装着はできません。
- ④ラッピングされた状態での出陣は認められません。また、ラッピングの箇所や数については制限いたしません。

(2) 各課目に共通したご注意

- ①規定課目を行う場合は、各動作を1声符のみで完全に行われた場合を満点とし、視符を使った場合は最小単位の減点があります。(前進、障害を除く)
- ②作業中、逸走した場合、その課目は0点となります。呼び出してすぐ戻ったものは次の課目に進めます。2回逸走した場合は以降の作業は中止となります。(ただし過度の逸走は、1回でも作業中止となる場合があります。)
- ③指導手がボール、えさ等を持って作業した場合は失格となります。
- ④作業中の大便、小便は大きな減点となります。
- ⑤審査員(またはスチュワード)の指示で命令をしなければならない時に、指示前にした場合は減点となります。
- ⑥作業中に不自然な、または余分な声視符、並びに誘導的動作は減点の対象となります。
- ⑦指導手の命令前に犬が動作した場合は、減点となります。
- ⑧作業中犬の首輪を持った場合は減点となります。(選別作業は除く。)
- ⑨作業会場の入場から退場まで、犬に対する体罰は許されず、失格もありえます。
- ⑩各課目の最後の脚側停座は、「アトエ」または「スワレ」の1声符のみで完全に行われた場合にのみ、満点となります。それ以上の声視符は使用毎に最小単位の減点があります。
- ⑪対面して行う作業は、必ず犬を一旦停止させ、審査員の指示により、犬を呼び脚側停座で終わります。(実施要領に特定の記載のある課目は除く)
- ⑫指導手が課目や実施要領を間違えた場合は、減点の対象となります。ただし、課目の作業前に審査員もしくはスチュワードに課目順を質問することは問題ありません。

7 入賞

(1) 各部の審査終了後、審査員長により、理事長賞審査が行われます。

(2) 理事長賞決定競技の実施要領が以下のように変更となります。

- ①規定課目1課目及び選択課目4課目、合計5課目で実施します。
規定課目…(1)紐無脚側行進
選択課目…(1)紐付脚側行進(2)停座及び招呼(3)伏臥(4)立止
(5)常歩行進中の伏臥(6)常歩行進中の停座
(7)常歩行進中の停座及び招呼(8)常歩行進中の伏臥及び招呼
- ②選択課目については、8課目の中から当日の審査員長が4課目を決定します。
- ③実施する5課目の順番は、審査員長が予め決定し、全犬同じ課目順で実施します。
- ④選択課目及び実施順番は、当日の朝に発表します。

(3) 各部各クラス1席より5席までを入賞とし、ロゼットを付与します。

8 トレーニング(T. CH)並びにグランドトレーニング(G. T. CH)登録制度

- (1)中等科・準高等科・高等科・服従スペシャルにおいて95%以上の得点を得た犬、臭気選別他臭の部で4回中3回以上成功した犬、オビディエンスI～IIIで80%以上の得点を得た犬にトレーニングチャンピオン(T. CH.)ポイント7Pを交付します。

訓練競技大会(本部主催)・東西日本トライアル10P、
ST連合会訓練競技会7P、クラブ訓練競技会5P

また、オビディエンスビギナーIIで80%以上の得点を得た犬にはトレーニングチャンピオン(T. CH.)ポイント3Pを交付します。

訓練競技大会(本部主催)・東西日本トライアル5P
ST連合会訓練競技会3P、クラブ訓練競技会2P

なお、家庭犬初等科の部において95%以上の得点を得た犬、臭気選別自臭の部で4回全て成功した犬、オビディエンスビギナーIで80%以上の得点を得た犬にはトレーニングチャンピオン(T. CH.)ポイント2Pを交付します。

訓練競技大会(本部主催)・東西日本トライアル3P
ST連合会訓練競技会2P、クラブ訓練競技会1P

- (2)アペンディクス登録犬及び本会登録犬以外の犬は訓練チャンピオン資格犬にはなりませんので、トレーニングチャンピオンポイント及びメジャー・トレーニングチャンピオンポイントは付与されません。
- (3)トレーニングチャンピオンポイントのうち、家庭犬準高等科・家庭犬高等科・服従スペシャル、臭気選別他臭の部、オビディエンスI～IIIは、メジャーポイントになります。
- (4)トレーニングチャンピオン(T. CH.)資格の取得と登録
 - ①トレーニングチャンピオンポイント(T. CH. P.)を20ポイント以上取得した犬に与えられます。ただし、取得した20ポイントのうち2枚以上は5ポイント以上のT. CH. ポイントでなければなりません。
 - ②T. CH. 取得に際しては、CDII以上(GD、IGP、BHを含む)の訓練試験資格の登録をしなければなりません。
- (5)グランドトレーニングチャンピオン(G. T. CH.)資格の取得と登録
 - ①G. T. CH. の資格条件は、T. CH. P. を60ポイント以上有する犬に与えられます。ただし、メジャーポイントを1枚以上取得していることと、T. CH. の登録を期限内に申請していることが条件となります。
 - ②仮に24ポイントで、トレーニングチャンピオン登録を行った場合、残り36ポイントでグランドトレーニングチャンピオンの資格条件が与えられます。
- (6)登録料は、T. CH. が3,500円、G. T. CH. が6,800円です。
- (7)チャンピオン登録を行いますと、チャンピオン証明書が贈られ、血統証明書にT. CH.、G. T. CH. の称号が印字され、その名誉が永久に記録されます。
- (8)トレーニングチャンピオン、グランドトレーニングチャンピオン登録に際しては、当該犬のDNA登録が必要となりますので、ご注意ください。

■訓練競技会規程第51条

主催者は、会員、非会員を問わず、競技会会場の規律、平穏を害するおそれのある者の競技会会場への入場を制限することができる。

1 出陳規定

- (1)オビディエンスビギナーⅠⅡは、競技会のみとなります。
- (2)オビディエンスⅠ～Ⅲは、競技と試験が同時となり、競技会の得点（成績）がそのまま試験の得点（成績）となります。
 - ①オビディエンスは、競技会会場でのみ実施します。（公認訓練所不可）
 - ②出陳料と受験料が必要となります。（出陳のみ、試験のみという選択は不可）
 - ③出陳するクラスの試験に合格登録済みの場合は、出陳料のみとなります。
- (3)出陳（受験）資格
 - ①オビディエンスビギナーⅠⅡの出陳資格は、本会会員所有の生後9カ月1日以上の本会登録犬（アベンディクス登録犬を含む）または本会の非公認犬種・本会の非公認団体登録犬・交雑犬となります。
 - ②オビディエンスⅠ～Ⅲへの出陳（受験）資格は、FCI公認犬種で本会会員所有者の本会登録犬（アベンディクス登録犬を含む）とし、それぞれ次の年齢となります。
オビディエンスⅠ・Ⅱ…生後9ヶ月1日以上
オビディエンスⅢ…生後15ヶ月1日以上
 - ③Ⅱ・Ⅲの出陳（受験）は、下のクラス出陳時に合計得点224点以上獲得かつ下のクラスの試験合格登録をしていなければなりません。
- (4)重複出陳
 - ①オビディエンスビギナーⅠⅡと、準初等科・初等科・中等科・準高等科・高等科・特別犬の部（本会登録犬以外）・臭気選別の部・足跡追及の部のいずれか1つのクラスに重複出陳できます。
 - ②オビディエンスⅠ～Ⅲと、中等科・準高等科・高等科・服従スペシャル・臭気選別の部・足跡追及の部のいずれか1つのクラスに重複出陳できます。

2 申込方法

所定の出陳申込書に必要事項を記入し、**出陳料並びに受験料を添えて**、締切日までに競技会事務所必着（消印無効）となるようにお申込下さい。

- ①出陳料 1頭に付8,000円
- ②受験料 1頭に付5,400円

3 審査規定

- (1)審査は、本会公認審査員により厳正公平に採点いたします。
- (2)競技課目は「9競技クラス」を参照してください。実施要領についてはジャパンケネルクラブのホームページをご参照ください（<https://www.jkc.or.jp>）。
- (3)同点の席次決定は以下の通りとします。
 - ①オビディエンスビギナーⅠⅡの総合得点が同点の場合、担当審査員が判断します。
 - ②オビディエンスⅠ～Ⅲの総合得点が同点の場合、指定課目の合計得点の高いものを上位とします。指定課目の合計得点も同点の場合は担当審査員が判断します。
オビディエンスⅠの指定課目……科目2・4・5・9
オビディエンスⅡの指定課目……科目2・4・5・10
オビディエンスⅢの指定課目……科目3・5・6
- (4)得点は、課目の終了ごとに審査員が掲示します。
 - ①得点は、5点～10点（0.5点刻み）とし、5点未満は全て0点となります。
 - ②課目の得点は、審査員が掲示した得点に、課目で定められた係数を乗じたものとなります。
【例：8点（審査員）×3（係数）＝24点（当該課目の得点）】

4 試験の合否

- (1)満点を320点とし、合計得点が192点（60%）以上を合格とします。但し上のクラスへ出陳するには従来通り合計得点224点（70%）以上獲得後となります。
- (2)一つの課目が0点であっても、合格点に達していれば合格となります。

5 試験の評価

満点を320点とし、合計得点によって評価します。

- V（優）……………256点以上
- S G（特良）………224点以上～256点未満
- G（良）……………192点以上～224点未満

6 トレーニングチャンピオンポイント

- (1)オビディエンスビギナーⅠは満点を160点とし、合計得点が128点（80%）以上の得点を得た本会登録犬に、トレーニングチャンピオンポイント2ポイントを付与します。
- (2)オビディエンスビギナーⅡは満点を210点とし、合計得点が168点（80%）以上の得点を得た本会登録犬に、トレーニングチャンピオンポイント3ポイントを

付与します。

- (3)オビディエンスⅠ～Ⅲは満点を320点とし、合計得点が256点（80%）以上の得点を得た犬に、メジャー・トレーニングチャンピオンポイント7ポイントを付与します。
- (4)同一犬が、複数のT.CH.P及びM.T.CH.Pを取得した場合、1クラスのみ有効とします。家庭犬とオビディエンスで重複した場合も同様に1クラスのみ有効とします。有効とするポイントは出陳者の方が選択してください。
- (5)アベンディクス登録犬及び本会登録犬以外の犬は訓練チャンピオン資格犬にはなりませんので、トレーニングチャンピオンポイント及びメジャー・トレーニングチャンピオンポイントは付与されません。

7 注意事項

- (1)競技進行は、全てスチュワードが行います。
- (2)脚側行進のコースは、当日の朝に発表します。
- (3)チョークチェーンで、犬の首が絞まる状態は不可とします。
- (4)リードを外して肩にかける場合は、留め具は右側（犬側不可）の位置とします。
- (5)各課目終了後に軽く褒めることは認められます。（犬を軽く撫でる程度）
- (6)発情犬は、クラスの最後の組で競技することとします。頭数によっては、ダミー犬を使用します。

8 オビディエンスチャンピオン（OB.CH）、グランドオビディエンスチャンピオン（G.OB.CH）並びにFCIインターナショナルオビディエンスチャンピオン（C.I.OB）登録制度

- (1)OB.CHについて
 - ①OB.CH登録資格は、訓練競技会におけるオビディエンスビギナーⅠ、オビディエンスビギナーⅡ、オビディエンスⅠ、オビディエンスⅡ、オビディエンスⅢでトレーニングチャンピオンを20ポイント以上取得した犬に与えられます。
 - ②取得したトレーニングチャンピオンポイントのうち2枚以上は、オビディエンスⅠ以上で取得したものでなければなりません。
 - ③DNA登録を完了していなければなりません。
- (2)G.OB.CHについて
 - ①G.OB.CH登録資格は、訓練競技会におけるオビディエンスⅠ、オビディエンスⅡ、オビディエンスⅢでトレーニングチャンピオンポイントを60ポイント以上取得した犬に与えられます。
 - ②取得したトレーニングチャンピオンポイントのうち、オビディエンスⅡ並びにオビディエンスⅢを各1枚以上で取得したもの、またはオビディエンスⅢを2枚以上取得していなければなりません。
 - ③OB.CH登録を完了していなければなりません。
- (3)キャッシュオブ（以下CACIOB）について
 - ①訓練競技大会（本部主催）ならびにFCIインターナショナルトライアルのオビディエンスⅢの1席犬で、得点が256点以上の場合にCACIOBが付与されます。
 - ②前項の犬がC.I.OB（旧：INT.OB.CH）の資格条件を達成している場合、次席犬で得点が256点以上の場合にリザーブキャッシュオブ（以下R.CACIOB）が付与されます。
 - ③アベンディクス登録犬に交付されたCACIOBは、無効となります。
 - ④CACIOB及びR.CACIOBは当日仮証を発行し、後HFCIによって承認されたものは報告書に従って本証が発行されます。
- (4)C.I.OB（旧：INT.OB.CH）について
資格条件は以下の通りです。
 - ①異なる審査員が発行した2枚のCACIOBを取得していること。ただし、最終のCACIOBの取得は、最初のCACIOB取得日から1年1日以上経過していなければなりません。
 - ②DNA登録。
 - ③OBⅢの訓練試験資格の登録。
 - ④FCIインターナショナルビューティーチャンピオンまたは、FCIインターナショナルチャンピオンの資格を取得しているか、FCIインターナショナルドッグショーでグッド以上の評価。
 - ⑤C.I.OB（旧：INT.OB.CH）の登録資格を満たした場合、本会は速やかに当該犬の所有者に通知します。通知の到着日から3カ月以内に登録を完了しなければなりません。

9 競技クラス

オビディエンスビギナーⅠ

課題1 犬と対面しての30秒間の停座（紐付）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭～6頭並ぶ。）指示により指導手は犬に待てを命じ、引き綱を弛ませた任意の距離で犬と対面する。

約30秒間経過後、指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により終わる。

（係数3 最高得点30点）

課題2 犬と対面しての30秒間の伏臥（紐付）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭～6頭並ぶ。）指示により脚側停座の状態から、1頭ずつ伏臥を命じる。最後の指導手が犬を伏臥させた後、引き綱を放し犬に待てを命じ、約5m離れて犬と対面する。

約30秒間経過後、指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により1頭ずつ脚側停座（右側から伏臥を指示した場合、脚側停座は左側から順に指示する。）させ、指示により引き綱を手に持ち終わる。

1頭ずつ犬を伏臥または脚側停座させる際に、犬が他の指導手の命令で行動した場合、新たな命令をしてはならない。（犬はその状態のままとする。）

（係数2 最高得点20点）

課題3 紐付き脚側行進

出発点で犬を脚側停座させる。指導手は左手に引き綱を持ち待機する。

準備が確認されたら、指示によりA前、B右へ（90度）、C左へ（90度）、D回れ右、E止まれ、F速歩を含んだ脚側行進を行い、指示により指導手は停止し、犬に脚側停座させ、指示により終わる。

スタート時及び歩度変換の際は、声符を与えなければならない。ただし、乱用及び誘導的な指導手の態度は、その程度に応じて減点される。

出場犬は原則的に同じコースで行う。

回れ右の場合、指導手と犬はともに同じ方向に回らなければならない。

（係数3 最高得点30点）

課題4 行進中の伏臥（紐付）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させて待機する。

指示により脚側行進を行う。指示により伏臥を命じると同時に引き綱を放し、指導手のみ行進し指示により対面する。指示により指導手は犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により脚側停座させ、指示により引き綱を手に持って終わる。

（係数3 最高得点30点）

課題5 伏臥を伴う招呼（紐付）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させて待機する。

指示により犬を伏臥させ、引き綱を放す。指示により指導手は犬に待てを命じ、指示された方向に約5m離れて対面する。指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、又は指導手の直前に一旦対面停座してから、脚側停座させる。さらに指示により引き綱を持ち、指示により行進をして、指示により脚側停座で終わる。対面停座した場合のみ、脚側停座を促す声符をかけることができる。

（係数4 最高得点40点）

課題6 扱い方人／犬

指導手と犬との調和と稟性。

（係数1 最高得点10点）

オビディエンスビギナーⅡ

課題1 犬と対面しての30秒間の停座（声符のみ）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭～6頭並ぶ。）指示により引き綱を外し、指示により指導手は犬に待てを命じ、約10m離れて犬と対面する。約30秒間経過後、指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により終わる。引き綱を外した時点から犬を触ってはならない。外した引き綱は、指導手の肩にかける。

（係数2 最高得点20点）

課題2 犬と対面しての1分間の伏臥（声符のみ）

指導手は、所定の位置に犬を脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭～6頭並ぶ。）指示により脚側停座の状態から、1頭ずつ伏臥を命じる。最後の指導手が犬を伏臥させた後、指示により犬に待てを命じ、約10m離れて犬と対面する。約1分間経過後、指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により1頭ずつ脚側停座（右側から伏臥を指示した場合、脚側停座は左側から順に指示する。）させ、指示により引き綱を付けて終わる。

1頭ずつ犬を伏臥または脚側停座させる際に、犬が他の指導手の命令で行動した場合、新たな命令をしてはならない。（犬はその状態のままとする。）

（係数2 最高得点20点）

課題3 紐付き脚側行進（声符のみ）

出発点で犬を脚側停座させる。指導手は左手に引き綱を持ち待機する。準備が確認されたら、指示によりA前、B右へ（90度）、C左へ（90度）、D回れ右、E回れ左、F止まれ、G速歩を含んだ脚側行進を行う。指示により指導手は停止し、犬に脚側停座させ、指示により終わる。

スタート時及び歩度変換の際は、声符を与えなければならない。ただし、乱用及び誘導的な指導手の態度は、その程度に応じて減点される。出場犬は原則的に同じコースで行う。回れ右・回れ左の場合、指導手と犬はともに同じ方向に回らなければならない。

（係数3 最高得点30点）

課題4 紐無し脚側行進（声符のみ）

指導手は、犬に引き綱を付けて出発点で待機し、指示により引き綱を外し、指導手の肩にかけて、課題3の要領で行う。

（係数4 最高得点40点）

課題5 行進中の伏臥及び招呼（声符のみ）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させて待機する。指示により指導手は、常歩で脚側行進し、約5mの地点で指示により伏臥を命じる。指導手は止まる事なく振り返らず、引き続き約10m直進し対面する。指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、又は指導手の直前に一旦対面停座してから、脚側停座させて終わらせる。対面停座した場合のみ、脚側停座を促す声符をかけることができる。

（係数3 最高得点30点）

課題6 前進（声符及び視符）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させて待機する。指示により指導手は犬に待てを命じ、約10m前方の3m四方の区域内に引き綱を置き、犬の元へ戻り、指示により犬を前進させ、3m四方の区域内で停止させる。（犬は停座、伏臥、立止のどの状態でも良い）

指示により指導手は、常歩で犬の左側から後方を通り、犬の元に戻り、指示により基本姿勢をとらせて終わる。犬を前進させる時のみ声視符同時なら許される。犬の体の一部が区域内に接している場合は、状態に応じて減点とし、区域外であれば区域内に入れる命令をかけても良いが、減点となる。また、四隅のコーンに犬の鼻が触れると減点となる。引き綱は、3m四方の区域内のどの場所に置いても良いが、反射する色の引き綱は認められない。3m四方の各コーナーにはコーンを置く。

（係数3 最高得点30点）

課題7 遠隔操作（声符及び視符）

犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により指導手は犬に待てを命じ、常歩で指示された方向に約10m離れて対面する。指示により犬を伏臥させる。指示により指導手は常歩で、犬の左側から後方を通り犬の元に戻り、指示により脚側停座させて終わる。指導手の命令は、犬の姿勢を変える時のみ、声視符同時なら許される。

（係数3 最高得点30点）

課題8 扱い方人／犬

指導手と犬との調和と稟性。

（係数1 最高得点10点）

オビディエンスⅠ

課題1.1分間のグループ停座（指導手は視野内）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭～6頭並ぶ。）指示により指導手は、約15m離れて所定の位置で犬と対面する。この時点で時間計測される。

1分間経過後、指示により常歩で、犬の後方約3mの位置で犬の方に向けて静止する。指示により犬の元に戻り、指示により終わる。

【紐付きでの入場は認められるが、作業中は犬の視野外とする。】

（係数3 最高得点30点）

課題2.紐無し脚側行進

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により常歩（右折・左折・反転ターン・停止）速歩（右折・反転ターン・停止）、2～3歩の前進及び後退を含んだ脚側行進を行い、指示により終わる。

【作業時間は、1分間までとする。】

（係数4 最高得点40点）

課題3.行進中の1姿勢（立止・停座・伏臥）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により約10mを常歩で脚側行進し、指示により指定姿勢を歩度を変えずに実行し、指導手は更に約10m直進し所定の位置で犬と対面して静止する。約3秒後、指示により犬に向かって進み、犬の右側約50cm離れて通り、犬の後方約1～2mで指示により反転ターンをして犬の元に戻り、指示により脚側停させ、指示により終わる。

【指定姿勢は、事前告知される。】

（係数3 最高得点30点）

課題4.招呼

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により伏臥させ、指示により約20～25m離れた所定の位置で犬と対面して静止する。指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか対面停座してから脚側停座して、指示により終わる。

【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。招呼声符と犬名の連続発声は認められる。】

（係数4 最高得点40点）

課題5.指定範囲への送り出し及び伏臥

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により犬を約15m離れた約3m四方の指定範囲へ送り出す。指定範囲で犬が伏臥したら指示により犬の元に進み、指示により脚側停座させ、指示により終わる。

【作業開始前に、指定範囲にて直接伏臥させるか立止させるかを審査員に告げる。立止させた場合は、約3秒後に指導手判断して伏臥させる。指導手と犬が離れた状態での声符と視符の同時使用が認められる。】

（係数4 最高得点40点）

課題6.遠隔操作による4姿勢変更（停座／伏臥）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により伏臥させ、指示により約5m離れた所定の位置に進み犬と対面して静止する。指示により、姿勢変更を4回実行（停座→伏臥→停座→伏臥）する。指示により犬の元に戻り、指示により脚側停座させ、指示により終わる。

【姿勢変更の指示は、犬から目視不可能な位置から約3秒間隔とする。】

（係数4 最高得点40点）

課題7.障害飛越を伴うダンベル持来

指導手は、障害から約2～4m離れた任意の位置に犬を脚側停座させる。ダンベルを受け取り、指示によりダンベルを投てきし、指示により飛越持来させる。犬は持来したら、直接脚側停座するか対面停座し、指示によりダンベルを受け取り、指示により終わる。

【対面停座した場合は受け取り後、指示により脚側停させ。障害の高さは概ねキ甲に比例し、最大設定高は50cmとする。】

（係数4 最高得点40点）

課題8. コーン又はバレル回り作業を含む単独往復走行

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により、約10m離れたコーン群又はバレル回りを実行させる。回り方は左右どちらでも可能とする。指導手の元に戻り、直接脚側停座するか対面停座してから脚側停座して、指示により終わる。
【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。コーン群は3〜6個とし、高さ40〜50cm・奥行70〜80cmバレルは直径70〜80cm・高さ40〜50cmとする。】
(係数4最高得点40点)

課題9. 作業総合印象

作業意欲、正確性、指示に対する服従性、指導手と犬によるチームワーク及び自然な動作、スポーツマンシップ等が重要視される。作業スピードは、犬種の特性が考慮される。課題中の排便、排尿はその課題と作業総合評価目が0点となる。
(係数2最高得点20点)

オビディエンスII

課題1. 2分間のグループ伏臥（指導手は犬の視野外待機）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭〜6頭並ぶ。）指示により、1頭ずつ左から右へ順番に伏臥を実行する。最後の犬が伏臥をした後、指示により、犬から見えない場所に指導手のみ離れる。この時点で時間計測される。2分間経過後、指示により指導手は指定の位置で犬と対面して静止する。指示により常歩で、犬の後方約3mの位置で犬の方に向けて静止する。指示により犬の元に戻り、指示により右から左へ順番に脚側停座させて、指示により終わる。
【伏臥中に1頭ずつ連続8の字等の誘惑行為を受ける。他の犬に影響を及ぼす大きな声符は、減点とする。】
(係数3最高得点30点)

課題2. 紐無し脚側行進

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により常歩・速歩・緩歩・右折・左折・反転ターン・停止・2〜3歩の前進及び後退2〜3mの後退歩行等を含んだ脚側行進を行い、指示により終わる。
【作業時間は、2分間までとする。】
(係数4最高得点40点)

課題3. 行進中の2姿勢（立止・停座・伏臥）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により指定された方向へ常歩で脚側行進し、約5mの地点で、指示により指定姿勢を歩度を変えずに実行し、更に5m先の目印まで進み、指示により反転ターンして犬の元に進み、犬の右側約50cm離れて約2m通過し、指示により反転ターンして犬の元に戻る。犬に到達したら、指導手は止まることなく脚側行進を実行し、約5m先の目印で右（左）折し、更に約5mの地点で指示により指定姿勢を歩度を変えずに実行し、更に約5m先の目印まで進み、指示により反転ターンして犬の元に進み、犬の右側約50cm離れて約2m通過し、指示により反転ターンして犬の元に戻る。犬に到達したら、指導手は止まることなく脚側行進を実行し、約5m先の目印で指示により止まり、指示により終わる。
【指定姿勢は、事前に告知される。】
(係数3最高得点30点)

課題4. 立止を伴う招呼

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により伏臥させ、指示により約25〜30m離れた所定の位置で犬と対面して静止する。指示により犬を招呼する。約半分の地点で立止を実行し、約3秒後、指示により再度犬を招呼し、犬は直接脚側停座するか対面停座してから脚側停座して、指示により終わる。
【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。立止の実行は、声符と視符の同時使用が認められる。立止地点には目印が記される。】
(係数3最高得点30点)

課題5. 指定範囲への送り出しと伏臥及び招呼

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により犬を約23m離れた約3m四方の指定範囲へ送り出す。指導手は指定範囲で犬が伏臥したら、指示により常歩で右側のコーンへ進み、コーンから約2m手前の地点で指示により左折し、約3m進み指示により左折し出発点に進む。更に約10mの地点で指示により招呼し、止まることなく大を脚側行進させて、指示により停止し、指示により終わる。
【作業開始前に、指定範囲にて直接伏臥させるか立止させるか審査員に告げる。立止させた場合は、約3秒後に指導手判断にて伏臥させる。招呼時に一瞬振り向くことは認められる。】
(係数4最高得点40点)

課題6. 遠隔操作による方向変換を伴うダンベル持来

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。（この時点で作業開始が告げられ、ダンベルが配置される。）指示により、脚側行進で約5m離れた目印を1〜2m通過し、指示により反転ターンして目印の前で歩度を変えずに立止を実行し、出発点に戻り犬と対面して静止する。約3秒後、指示により事前に抽選したダンベルを持来させる。犬は持来したら、直接脚側停座するか対面停座して、指示によりダンベルを受け取り、指示により終わる。
【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。左右の抽選は、作業前に行われる。】
(係数3最高得点30点)

課題7. 木製物品6個からの選別作業

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指導手は本物品を受け取り約10秒間手で保持する。この時点で犬が物品に触れる、嗅ぐ行為は認められない。指示により物品を渡し、指示により反転する。（指導手のみ反転するか、指導手と犬が共に反転するかは指導手判断とする。）物品配置後、指示により反転し、指示により物品選別持来させる。持来後、直接脚側停座するか対面停座して、指示により物品を受け取り、指示により終わる。
【対面停座した場合は受け取り後、指示により脚側停座させる。各物品は、円状・垂直線・水平線に約25cm間隔で配置される。垂直線・水平線に配置される場合は、本物品が両端になる事は認められない。作業時間は約30秒とする。】
(係数3最高得点30点)

課題8. 遠隔操作による6姿勢変更

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により伏臥させ、指示により約10m離れ

た所定の位置に進み、犬と対面して静止する。指示により指定姿勢変更を6回（停座→立止→伏臥→停座→立止→伏臥/立止→停座→伏臥→立止→停座→伏臥）実行する。指示により犬の元に戻り、指示により脚側停座させ、指示により終わる。
【姿勢変更の指示は、犬から目視不可能な位置から約3秒間隔とする。】

(係数4最高得点40点)

課題9. コーン群又はバレル回り作業を伴う単独往復走行、静止（立止・伏臥）及び障害飛越

指導手は、各障害を結ぶ想像上の線より約5m〜7m離れた任意の位置に犬を脚側停座させる。（この時点で、コーン群・バレル等の設置は完了している。）指示により、約15〜17m離れたコーン群、又はバレル回りを実行させ犬が折り返して最低2m進んだ地点で静止させる。約3秒後、指示により指定された障害を飛越させる。犬は飛越したら、直接脚側停座するか対面停座してから脚側停座し、指示により終わる。
【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。飛越する障害は事前に抽選されるが、作業中の静止後に告げられる。静止の姿勢は立止か伏臥とし、事前に告げられる。静止の命令は、声符と視符の同時使用が認められる。コーン群は3〜6個とし、高さ40〜50cm・奥行70〜80cm、バレルは直径70〜80cm・高さ40〜50cmとする。障害の高さは概ねキ甲に比例し、最大設定高は50cmとする。】
(係数3最高得点30点)

課題10. 作業総合印象

作業意欲、正確性、指示に対する服従性、指導手と犬によるチームワーク及び自然な動作、スポーツマンシップ等が重要視される。作業中及び課題間の全行動が反映される。犬がリングを離れた場合（課題1は除く）や、排便、排尿は失格となる。
(係数2最高得点20点)

オビディエンスIII

課題1. 2分間のグループ停座（指導手は犬の視野外待機）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約4〜5mとし、横一列で3〜4頭並ぶ。）指示により、犬から見えない場所に指導手のみ離れる。この時点で時間計測される。2分間経過後、指示により指導手は、指定の位置で犬と対面して静止する。指示により、犬から約10m離れた指定の位置へ進み、指示により終わり、課題2が実行される。
(係数2最高得点20点)

課題2. 1分間のグループ伏臥及び招呼

指導手は指示により、1頭ずつ左から右へ順番に伏臥を実行する。全犬伏臥後に時間計測される。1分間経過後、指示により1頭ずつ右から左へ順番に招呼する。招呼後、直接脚側停座するか対面停座した場合は、指示により脚側停座させ、指示により終わる。
【他の犬に影響を及ぼす大きな声符は、重度の減点とする。スチュワードは、各犬が完全に脚側停座した後に次の犬の元へ進む。】
(係数2最高得点20点)

課題3. 紐無し脚側行進

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により常歩・速歩・緩歩・右折・左折・反転ターン・停止・2〜3歩の左右及び前後への歩行5〜10mの後退歩行・その場での左右への方向変換及び反転ターン等を含んだ脚側行進を行い、指示により終わる。
【課題の途中で課題4「行進中の2姿勢（立止・停座・伏臥）」が実行される。作業時間は4.5分間までとする。】
(係数4最高得点40点)

課題4. 行進中の2姿勢（立止・停座・伏臥）及び招呼

課題3の紐無し脚側行進作業中の停止後に、課題4への移行が指示される。指導手は、事前に告知された作業をスチュワード指示により実行し、指示により終わる。課題4終了後、指示により課題3の脚側行進が再実行され、指示により終わる。
【指定2姿勢及び招呼の実行は、それぞれ明確に指示される。作業内容は事前に告知される。】
(係数3最高得点30点)

課題5. 2姿勢（立止・停座・伏臥）を伴う招呼

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により伏臥させ、指示により約30〜35m離れた所定の位置で犬と対面して静止する。指示により犬を招呼する。犬が約三分の一地点に達したら指定姿勢を実行し、静止させる。約3秒後、指示により招呼し三分の二地点に達したら指定姿勢を実行し、静止させる。約3秒後、指示により招呼する。犬は直接脚側停座するか対面停座してから脚側停座して、指示により終わる。
【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。指定姿勢は事前に告知される。指定姿勢指示は、声符と視符の同時使用が認められる。静止地点には目印が記される。】
(係数3最高得点30点)

課題6. 方向変換を伴う指定範囲への送り出しと伏臥及び招呼

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により約10m前方の指定円内（半径約2m）に送り出し、立止を実行する。約3秒後、指示により円から約23m離れた右（左）の指定範囲（約3m四方）へ送り出す。指定範囲で犬が伏臥したら、指示により常歩で犬の元に進み、指定範囲から約2m手前で、指示により右（左）折して約10m進み、指示により右（左）折し出発点に進む。約10mで指示により招呼し、指導手は止まることなく犬を脚側行進させて指示により停止し、指示により終わる。
【作業開始前に、指定範囲にて直接伏臥させるか立止させるか審査員に告げる。指導手と犬が離れた状態での声符と視符の同時使用が認められる。招呼時に一瞬振り向くことは認められる。】
(係数4最高得点40点)

課題7. 遠隔操作による方向変換を伴うダンベル持来

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。（この時点で作業開始が告げられ、3個のダンベルが配置される。）指示により、約20m前方中央のダンベルに向かって、最低10m前方まで犬を送り出し、立止を実行する。約3秒後、指示により事前に抽選したダンベルを持来させる。犬は持来したら直接脚側停座するか対面停座し、指示によりダンベルを受け取り、指示により終わる。
【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。ダンベルの抽選は事前に行われる。】
(係数3最高得点30点)

課目8. コーン群又はバレル回り作業と指定姿勢実行（立止・停座・伏臥）並びに方向変換と障害飛越を伴うダンベル持来

指導手は、各障害を結ぶ想像上の線より約5m～7m離れた任意の位置に犬を脚側停座させる。（この時点で、コーン群・バレル等の設置は完了している。）指示により約20～22m離れたコーン群又はバレル回りを実行させ、犬が折り返して約2m進んだ地点で指定姿勢を実行させる。約3秒後、指示により指定されたダンベルを持来すると共に障害飛越を実行させる。持来後、直接脚側停座するか対面停座して、指示によりダンベルを受け取り、指示により終わる。

【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。指定姿勢は事前に告知される。指定されるダンベルと障害は事前に抽選されるが、作業中の静止後に告げられる。ダンベルと障害の距離は約6mとする。静止の命令は、声符と視符の同時使用が認められる。コーン群は3～6個とし、高さ40～50cm・奥行70～80cm、バレルは直径70～80cm・高さ40～50cmとする。障害の高さは概ねキ甲に比例し最大設定高は60cmとする。】

（係数4 最高得点40点）

課目9. 木製物品6～8個からの選別作業

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指導手は本物品を受け取り、約5秒間手で保持する。この時点で犬が物品に触れる、嗅ぐ行為は認められない。指示により物品を渡し、指示により反転する。（指導手のみ反転するか、指導手と犬が共に反転するかは指導手判断とする。）物品配置後、指示により反転し、指示により物品選別持来させる。持来後、直接脚側停座するか対面停座し、指示により物品を受け取り、指示により終わる。

【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。配置パターンはガイドライン参照。作業時間は、約30秒とする。】

（係数3 最高得点30点）

課目10. 遠隔操作による6姿勢変更

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により伏臥させ、指示により約15m離れた所定の位置で犬と対面して静止する。指示により指定姿勢を6回（各姿勢を2回実行する。）実行する。指示により犬の元に戻り、指示により脚側停座させ、指示により終わる。【姿勢変更の指示は、犬から目視不可能な位置から約3秒間隔とする。】

（係数4 最高得点40点）